

**うつ（日本うつ病学会）
[指定演題]**

プログラム

会長講演

特別講演 1～3

教育講演 1～2

大会企画シンポジウム 1～9

国際双極性委員会（ISBD）

サテライトシンポジウム

委員会企画シンポジウム

- ・自殺対策委員会
- ・多職種連携委員会
- ・気分障害の治療 ガイドライン検討委員会
- ・ニューロモジュレーション委員会

奨励賞受賞講演

うつ 会長講演

現地

ライブ

2022年7月15日(金) 14:00～15:00

第1会場「1F 大ホール」

M-PL 光やリチウム、実存的アプローチを味方につけて幸せになるう

座長

渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室

演者

寺尾 岳 大分大学医学部精神神経医学講座

うつ 特別講演1

現地

ライブ

2022年7月14日(木) 14:00～15:00

第1会場「1F 大ホール」

M-SL1 うつ病の認知行動療法とリワーク：リカバリーのあり方について

座長

岡本 泰昌 広島大学精神神経医科学

演者

菊地 俊暁 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

うつ 特別講演2

現地

ライブ

2022年7月14日(木) 15:10～16:10

第1会場「1F 大ホール」

M-SL2 うつ病治療におけるリワークの意義

座長

寺尾 岳 大分大学医学部精神神経医学講座

演者

五十嵐 良雄 医療法人社団雄仁会

うつ 特別講演3

現地

ライブ

2022年7月15日(金) 15:10～16:10

第1会場「1F 大ホール」

M-SL3 精神病者の復職判定をめぐる裁判例の到達点

座長

田中 克俊 北里大学大学院医療系研究科産業精神保健学

演者

三柴 丈典 近畿大学法学部

うつ 教育講演 1

現地

ライブ

2022年7月14日(木) 9:30～10:30

第3会場「1F 小ホール」

M-EL1 うつ病にひそむ神経発達症

座長

高江洲 義和

琉球大学大学院医学研究科精神病態医学講座

演者

近藤 毅

琉球大学大学院医学研究科精神病態医学講座

うつ 教育講演 2

現地

ライブ

2022年7月15日(金) 9:50～10:50

第1会場「1F 大ホール」

M-EL2 ライフコースアプローチによる心の健康づくり 日・英大規模出生コホート研究の経験から

座長

堀 輝

福岡大学医学部精神医学教室

演者

西田 淳志

東京都医学総合研究所 社会健康医学研究センター

うつ 大会企画シンポジウム1

現地

ライブ

改定版日本うつ病学会双極性障害診療ガイドライン Part 1

2022年7月14日(木) 9:30～11:20

第1会場「1F 大ホール」

オーガナイザー

松尾 幸治

埼玉医科大学医学部精神医学

【趣旨・狙い】

現在の日本うつ病学会双極性障害治療ガイドラインは2011年が初版で、骨子は大きく変えずに追加・修正などが行われ最新版は2020年版である。そのため、オリジナルな箇所に関しては10年以上前のものであるため見直しが求められていた。2019年秋に改訂のための準備会議が立ち上げられ、Minds2017の方法に従ったガイドラインに全面的に改定した。COVID-19感染に関連した精神科医療のため、ガイドライン作成が一時中断せざるを得ない状況がしばらく続いたが、ようやく日の目を見ることができた。

本シンポジウムでは、疾患の特徴、躁病エピソード、副作用とモニタリング、周産期のナラティブチームおよびシステムティックレビューチームのリーダーが各セクションを紹介し、多職種メンバーである薬剤師、看護師からガイドライン作成に関わった思いや期待等を語っていただく。

座長

渡邊 衡一郎

杏林大学医学部精神神経科学教室

松尾 幸治

埼玉医科大学医学部精神医学

M-S1-1

疾患の特徴

小笠原 一能

名古屋大学医学部附属病院卒後臨床研修・キャリア形成支援センター/精神科

M-S1-2

躁病エピソード 執筆担当者より

本村 啓介

さいがた医療センター精神科

M-S1-3

躁状態の薬物療法 –メタ解析の結果から–

加藤 正樹

関西医科大学医学部精神神経科学講座

M-S1-4

薬物安全性モニタリング

鈴木 映二

東北医科薬科大学医学部精神科学教室

M-S1-5

双極性障害と妊娠・出産

根本 清貴

筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学

M-S1-6

双極性障害診療ガイドライン作成に参加してー看護師の立場からー

岡田 佳詠

国際医療福祉大学成田看護学部

M-S1-7

ワーキンググループに参加して～薬剤師の立場から①～

黒沢 雅広

昭和大学附属烏山病院

M-S1-8

ワーキンググループに参加して～薬剤師の立場から②～

谷藤 弘淳

こだまホスピタル

うつ 大会企画シンポジウム2

現地

ライブ

気分障害と神経変性疾患

2022年7月14日(木) 9:30～11:10

第2会場「3F 大会議室」

オーガナイザー

馬場 元

順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院メンタルクリニック

【趣旨・狙い】

うつ病をはじめとする気分障害が様々な神経変性疾患に併存することや危険因子であることを示した疫学的調査の報告は多い。アルツハイマー病や前頭側頭葉変性症などの神経変性疾患の28%以上が過去に精神疾患の病名がつけられており、その中でも特にうつ病や双極性障害などの気分障害と診断されていることが多かったと報告された（Woolley JD. 2011）。レビー小体型認知症の診断基準（McKeith IG. 2017）では、うつや不安が支持的特徴のひとつとなっている。また双極性障害の連続剖検脳において、そのすべてに嗜銀顆粒を認めたという報告もある（Shioya A. 2015）。高齢者の気分障害の一部はこうした神経変性疾患の前駆状態であることが示唆されている一方で、気分障害が神経変性疾患の病理変化を促進させるという指摘もあり、両疾患群の関係性には明らかになっていないことが多い。

近年、こうした気分障害と特に認知症性の神経変性疾患との関連性については、一般臨床精神科医の間でも関心が高まり、また新たな知見も増えている。そこで本シンポジウムでは気分障害とアルツハイマー病、レビー小体型病、前頭側頭葉変性症、そして嗜銀顆粒病との関連について、それぞれのエキスパートより最新の知見を紹介していただく。

座長

橋本 衛

近畿大学医学部精神神経科学教室

馬場 元

順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院メンタルクリニック

M-S2-1

気分障害をはじめとする精神疾患とタウ・アミロイドβについて

森口 翔

慶應義塾大学医学部精神神経科

M-S2-2

高齢者のうつ病とレビー小体型病

藤城 弘樹

かわさき記念病院

M-S2-3

前頭側頭型認知症と気分障害

橋本 衛

近畿大学医学部精神神経科学教室

M-S2-4

嗜銀顆粒病と気分障害

横田 修

きのこエスポール病院

うつ 大会企画シンポジウム3

現地

ライブ

気分障害治療における Shared Decision Making

2022年7月14日(木) 14:00～15:40

第4会場「3F 302+303」

オーガナイザー 渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室

【趣旨・狙い】

当事者と治療者による双方向性の治療方針決定法である Shared Decision Making (SDM: 共同意思決定) は、当事者の価値観によって治療方針も大きく変わりうる、慢性的に経過する疾患や同程度の効果的な治療選択肢が複数存在する疾患の場合に導入が望ましいとされる。気分障害においてもSDMを用いることで当事者の疾患理解や治療満足度を上げることが証明されただけでなく、病識が増し治療への積極性が高まったことなどが報告されている。

日本うつ病学会によるうつ病治療ガイドラインの「序文」でも、『本書はこのSDMをより円滑に進めるための情報提供の役割も担う。』と記載されている。

本シンポジウムでは、気分障害におけるSDMの現状、当事者や薬剤師の立場から見たSDMに対する思い、さらには気分障害の治療開始時のみならず治療終了時も含んだあらゆる場面における可能性について検討する。

座長 渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室
高江洲 義和 琉球大学大学院医学研究科精神病態医学講座

- M-S3-1 **うつ病診療における Shared Decision Making (SDM) の実現可能性**
渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室
- M-S3-2 **双極性障害診療におけるSDMの実践**
高江洲 義和 琉球大学大学院医学研究科精神病態医学講座
- M-S3-3 **気分障害当事者の視点から考えるSDM
—意思決定支援ツールDAを活用したSDM**
青木 裕見 聖路加国際大学大学院看護学研究科精神看護学
- M-S3-4 **薬剤師の視点からみた気分障害領域におけるSDM**
黒沢 雅広 昭和大学附属烏山病院
- M-S3-5 **気分障害における薬物療法の出口戦略を考える**
三島 和夫 秋田大学大学院医学系研究科精神科学講座

うつ 大会企画シンポジウム4

現地

ライブ

職域における発達障害とうつ病

2022年7月14日(木) 15:10～16:50

第2会場「3F 大会議室」

オーガナイザー 宮岡 等 北里大学名誉教授

【趣旨・狙い】

職域において、うつ状態であるがその背景に発達障害があるのではないかと指摘される場面が増えた。自閉スペクトラム症や注意欠如多動性障害に早く気付いて、個人の職業訓練を行い、過度の薬物療法を行わないことは重要である。一方、発達障害を背景にもつという診断によって個人の問題が誇張され、職場環境の改善が遅れることも少なくない。

本シンポジウムでは、まず問題点を整理し（田中）、うつ状態と発達障害の診断とそれらの関係（宮岡）、さらに企業内で求められる支援のあり方と現状（鎌田）に触れ、最後に安易な発達障害診断の問題点と適切な診断について述べる（香山）。

「発達障害のある人のうつ病だ」と安易に理解しないことが重要であると会場に伝わればよいと考える。総合討論の時間を長めにとったので、種々の立場から意見をいただければと思う。

座長 田中 克俊 北里大学大学院医療系研究科産業精神保健学
宮岡 等 北里大学名誉教授

M-S4-1 職域における発達障害とうつ病－問題点の整理－

田中 克俊 北里大学大学院医療系研究科産業精神保健学

M-S4-2 発達障害を背景にもつうつ状態の考え方

宮岡 等 北里大学名誉教授

M-S4-3 職域で遭遇する発達障害と企業内の支援

鎌田 直樹 富士電機株式会社東京工場地区健康管理センター

M-S4-4 発達障害診断の功罪

香山 リカ むかわ町国民保険穂別診療所

うつ 大会企画シンポジウム5

現地

ライブ

気分障害の新たな治療薬。適切なゴールと適切な評価。

2022年7月14日(木) 15:50～17:30

第4会場「3F 302+303」

オーガナイザー

加藤 正樹

関西医科大学医学部精神神経科学講座

【趣旨・狙い】

多くの気分障害は慢性的な経過を辿る。生涯付き合っていく必要がある場合も少なくない。しかしながら、高血圧症やリウマチなどの身体的な慢性疾患と同様に、完治しなければ人生を楽しめないといけないというわけでは、もちろんない。適切な治療を受け、症状を安定させることで、いわゆる“健常人”と同様に目標設定とゴールを繰り返し、充実感を持って人生のゴールを目指せるのではないだろうか。そのためには、それぞれの疾患や個人にあわせた短期的ゴール、中長期的ゴールを設定し、症状のフォローをしていく必要がある。治療者はそれら真のゴールの設定や、個々に異なるリカバリーの基準であるパーソナルリカバリーに関して正しく理解する必要がある。そこで本シンポジウムでは、新たな薬剤とその可能性、適切なゴールに向けた、疾病の理解とゴール設定、症状評価をそれぞれの専門家よりお話しいただく機会としたい。

座長

加藤 正樹

関西医科大学医学部精神神経科学講座

堀 輝

福岡大学医学部精神医学教室

M-S5-1

新規に適応取得した薬剤がフィットするゴール設定と、現在開発中の新薬への期待 —アンメットニーズは解決できるのか?—

加藤 正樹

関西医科大学医学部精神神経科学講座

M-S5-2

気分障害の適切なゴールとは

高江洲 義和

琉球大学大学院医学研究科精神病態医学講座

M-S5-3

気分障害治療と認知機能障害

堀 輝

福岡大学医学部精神医学教室

M-S5-4

うつ病における適切な治療ゴールとは何か

菊地 俊暁

慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

うつ 大会企画シンポジウム6

現 地

ライブ

看護における自殺予防

2022年7月15日(金) 9:50～11:30

第3会場「1F 小ホール」

オーガナイザー

河野 佐代子 慶應義塾大学病院 看護部・医療連携推進部

【趣旨・狙い】

看護職にとって、自殺予防は身近で重要なテーマであり続けており、看護職のさまざまな分野の自殺予防の取り組みの共有を行いたいと考え、本シンポジウムを開催することにした。

看護職の中には、自殺予防の実践が限られているために積極的な取り組みができないことや、対象者のケアに難しさを感じた経験から苦手意識を持っていることがあるかもしれない。自殺予防は、看護職個人で取り組むのではなく、組織全体で自殺予防の必要性を理解し、共通理解の上で実践をすることが大切だと考えている。

長期にわたるコロナ禍で、あらためて自殺予防の取り組みの重要性は増している。本シンポジウムでは、「看護における自殺予防」をテーマに、地域、訪問看護、精神科病院、総合病院、周産期で活動されている方々をお招きし、それぞれのフィールドで行っている自殺予防についてお話いただく予定である。

座 長

小山 達也 聖路加国際大学大学院博士後期課程

河野 佐代子 慶應義塾大学病院 看護部・医療連携推進部

M-S6-1 精神科病院における自殺予防

則村 良 駒木野病院看護部

M-S6-2 総合病院における自殺予防

河野 佐代子 慶應義塾大学病院看護部・医療連携推進部

M-S6-3 周産期における自殺予防

玉木 敦子 神戸女子大学 看護学部看護学科

M-S6-4 訪問看護における自殺予防

田嶋 佐知子 ハノン・ケアシステム株式会社ホウカンTOKYO

M-S6-5 地域における自殺対策の取り組みと保健師活動

与儀 恵子 いのちささえる自殺対策推進センター地域連携推進部

うつ 大会企画シンポジウム7

現地

ライブ

難治性うつ病に対する最新のアプローチ

2022年7月15日(金) 15:10～16:50

第2会場「3F 大会議室」

オーガナイザー 渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室

【趣旨・狙い】

「うつ」がなかなか良くならない例を多く経験するが、我々臨床家としては、こうした例をいかに寛解、そして回復に至らせ、さらに当事者の社会性やQOLなどを再び良好にさせることが使命となる。しかしながら、この病態をどのように考え、どう取り組むべきかについて、はっきりとした指針は未だ示されていない。

本シンポジウムでは、この「難治性うつ」の診断をどう再考するか、さまざまな疾患の可能性や併存症、さらには神経発達症についての検討、精神療法の効果、集団認知行動療法やストレスコーピングなどについて学ぶことが出来るリワーク、神経刺激療法、さらにはケタミンに至るまで、今考えられるあらゆる可能性について取り上げ、それぞれこの問題に熱心に取り組んでおられる先生方にご登壇いただく。参加者の明日からの診療の一助になればと考えている。

座長 渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室
中川 敦夫 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

M-S7-1 診断の重要性

村尾 昌美 杏林大学医学部精神神経科学教室

M-S7-2 難治性うつ病に対する認知行動療法

中川 敦夫 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

M-S7-3 リワーク「難治性うつ」に対しての複合的治療

佐々木 一 心の風クリニック

M-S7-4 磁気刺激療法と最新のトピックス

鬼頭 伸輔 国立精神・神経医療研究センター

M-S7-5 ケタミンという新しい選択肢

櫻井 準 杏林大学医学部精神神経科学教室

うつ 大会企画シンポジウム8

現地

ライブ

改定版日本うつ病学会双極性障害診療ガイドライン Part 2

2022年7月15日(金) 15:10～16:50

第3会場「1F 小ホール」

オーガナイザー

松尾 幸治

埼玉医科大学医学部精神医学

【趣旨・狙い】

現在の日本うつ病学会双極性障害治療ガイドラインは2011年が初版で、骨子は大きく変えずに追加・修正などが行われ最新版は2020年版である。そのため、オリジナルな箇所に関しては10年以上前のものであるため見直しが求められていた。2019年秋に改訂のための準備会議が立ち上げられ、Minds2017の方法に従ったガイドラインに全面的に改定した。COVID-19感染に関連した精神科医療のため、ガイドライン作成が一時中断せざるを得ない状況がしばらく続いたが、ようやく日の目を見ることができた。

本シンポジウムでは、抑うつエピソード、維持療法、心理社会的支援のナラティブチームおよびシステムティックレビューチームのリーダーが各セクションを紹介し、作成メンバーである当事者からガイドライン作成に関わった思いや期待等を語っていただく。

座長

加藤 忠史

順天堂大学医学部精神医学講座

松尾 幸治

埼玉医科大学医学部精神医学

M-S8-1

抑うつエピソード

田中 輝明

KKR札幌医療センター精神科

M-S8-2

抑うつエピソードの臨床疑問～系統的レビュー・メタ解析の結果から～

高江洲 義和

琉球大学大学院医学研究科精神病態医学講座

M-S8-3

維持療法（ナラティブレビュー）

仁王 進太郎

東京都済生会中央病院精神科

M-S8-4

維持期双極性障害に対する薬物治療： システムティックレビュー班からの報告

岸 太郎

藤田医科大学医学部精神神経科学講座

M-S8-5

双極性障害の心理社会的支援

宗 未来

東京歯科大学市川総合病院精神科

M-S8-6

双極性障害は遺伝するのか？当事者、家族の視点から

佐藤 純

ノーチラス会

M-S8-7

双極性障害の当事者として心から精神科医療に望むこと

窪田 信子

ノーチラス会

うつ 大会企画シンポジウム9

現地

ライブ

とことん突き詰めたからこそ見えてくる気分障害治療

2022年7月15日(金) 15:10~16:50

第4会場「3F 302+303」

オーガナイザー 堀 輝 福岡大学医学部精神医学教室

【趣旨・狙い】

気分障害治療は幅広い、薬物療法、精神療法、リハビリテーション、ライフスタイルなどからのアプローチがその一つである。本シンポジウムでは長年1つの道を深め続けた精神科医や研究者に登壇いただき、極め続けたからこそ見えてくる景色について講演をいただく。薬物療法に関しては井上猛先生、認知行動療法に関して大野裕先生、リワークに関して五十嵐良雄先生、リチウムと気分障害に関して寺尾岳先生にそれぞれの長年の臨床・研究の視点からご講演いただく。最後に1つの道を深め続ける中堅の立場から、薬理遺伝やRCTに関して加藤正樹先生、運動療法に関して堀が発表を行う。

1つの分野を追求し続けたからこそ見えてくる景色やその利点、欠点などについても共有できればと考えている。

座長 堀 輝 福岡大学医学部精神医学教室
加藤 正樹 関西医科大学医学部精神神経科学講座

M-S9-1 SSRIの抗うつ作用と抗不安作用

井上 猛 東京医科大学精神医学分野

M-S9-2 日常診療に生かす認知行動変容アプローチ

大野 裕 一般社団法人 認知行動療法研修開発センター

M-S9-3 ご利益の大きな、お守りとしてのリチウム

寺尾 岳 大分大学医学部精神神経医学講座

M-S9-4 リワークプログラムでの気分障害とその治療

五十嵐 良雄 医療法人社団雄仁会

M-S9-5 気分障害治療における運動療法

堀 輝 福岡大学医学部精神医学教室

M-S9-6 薬理遺伝とRCT—まだ突き詰められていない立場から—

加藤 正樹 関西医科大学医学部精神神経科学講座

うつ 国際双極性委員会 (ISBD) サテライトシンポジウム

現 地

ライブ

Treatment Guidelines of Bipolar Disorder : International Perspective
(双極性障害の治療ガイドライン：国際的視点)

2022年7月14日(木) 13:30～15:30

第3会場「1F 小ホール」

オーガナイザー

加藤 忠史

順天堂大学医学部精神医学講座

【趣旨・狙い】

本シンポジウムでは、カナダおよび国際双極性障害学会、オーストラリア、日本の3つのガイドラインを中心として、世界の双極性障害治療ガイドラインを紹介すると共に、これらのガイドラインをどのように活用して患者のQOL向上に役立てていくかについて議論する。

座 長

神庭 重信

一般社団法人日本うつ病センター

加藤 忠史

順天堂大学医学部精神医学講座

M-IS-1

Treatment Guidelines of Bipolar Disorder: International Perspective

Prof. Lakshmi N. Yatham Professor, Department of Psychiatry,
Faculty of Medicine,
University of British Columbia in Vancouver

M-IS-2

The Management of Bipolar Disorder: The RANZCP Mood Disorder Guidelines

Prof. Gin Malhi University of Sydney

M-IS-3

The JSMD Clinical Guideline for Bipolar Disorder

松尾 幸治 埼玉医科大学医学部精神医学

うつ 委員会企画シンポジウム1 [自殺対策委員会]

現地

ライブ

職場風土の改善を考える（孤独・孤立感の問題も含めて）

2022年7月14日(木) 9:30～11:30

第4会場「3F 302+303」

オーガナイザー

張 賢徳

一般社団法人日本うつ病センター六番町メンタルクリニック

【趣旨・狙い】

日本では1997年に山一ショックがあり、1998年に中高年男性の自殺が激増し、10年以上高止まりが続いた。日本人男性の自殺率は経済不況とよく相関することが指摘されている。2020年にはコロナ禍の中で女性と若者の自殺が激増した。女性と若者の自殺もまた経済問題との関係が指摘されている。コロナ禍で直撃を受けた業種は内需型サービス業（飲食サービス業、観光・宿泊業など）であり、そこで非正規雇用で働くこと多い女性と若者が経済不況の影響を受けやすいと考えられている。山一ショックにせよコロナショックにせよ、経済不況が自殺の増加に関係しているのは間違いない。しかし、「経済不況」という言葉だけで理解が止まってしまっているのだろうか？金銭問題だけですべて説明がつく話なのだろうか？経済不況に付随して生じる職場環境の変化も自殺行動の心理に影響するのではないか。あるいは、経済不況やコロナ禍に関係なく、そもそも職場の風土がメンタルヘルスに及ぼす影響を考えておく必要があるのではないか。このような問題意識のもと、本シンポジウムが企画された。

座 長

太刀川 弘和

筑波大学医学医療系臨床医学域災害・地域精神医学

張 賢徳

一般社団法人日本うつ病センター 六番町メンタルクリニック

M-CS1-1

職場風土とメンタルヘルス：働きやすい職場づくりの展望

真船 浩介

産業医科大学産業生態科学研究所産業精神保健学研究室

M-CS1-2

テレワークと職場の孤独・孤立

大塚 泰正

筑波大学人間系

M-CS1-3

職場でのハラスメント対策の必要性

田中 克俊

北里大学大学院医療系研究科産業精神保健学

M-CS1-4

病院の職場風土と医療スタッフのメンタルヘルス支援における課題

河西 千秋

札幌医科大学医学部神経精神医学講座

M-CS1-5

災害下やコロナ禍における職場のメンタルヘルスケアの実践

大塚 耕太郎

岩手医科大学医学部神経精神科学講座

岩手医科大学医学部災害・地域精神医学講座

岩手県こころのケアセンター

うつ 委員会企画シンポジウム2 [多職種連携委員会]

現地

ライブ

LGBTQ+のメンタルヘルス問題と現状

2022年7月14日(木) 15:10～17:10

第5会場「2F 201+202」

オーガナイザー

山口 律子

キャピタル損害保険株式会社

【趣旨・狙い】

LGBTQ+と呼ばれる性的マイノリティーの活躍は目覚ましく、TVやマスメディアで目にしない日はない。ダイバーシティ経営推進の一環として、企業がLGBTQ+の支援施策に取り組み、学校・地域の中でも性的マイノリティーを人権の問題として捉える動きが国内外で加速している。

その一方で、LGBTQ+の人のメンタルヘルスは損なわれやすく、LGBTQ+の人が希死念慮を抱く割合は、異性愛者の人に比べて約2倍、自殺未遂率はその約6倍であることが報告されている。さらに、トランスジェンダーの人の自殺未遂率は約10倍に上り、LGBTQ+の人々の自殺リスク、メンタルヘルス、健康リスク行動の関与への懸念が高まっている。

今回はLGBTQ+のメンタルヘルス問題に焦点を当て、実態を探り、最後には1人ひとりにできることを考えたい。また、このシンポジウムを通じ、参加者の方自身が、性の多様性を認め、差別や偏見に敏感になり「誰もが生きやすい社会」「性的マイノリティーの味方、同盟者・支援者」を意味する「ALLY（Alliance 同盟）」への第一歩としたい。

座長

山口 律子

キャピタル損害保険株式会社

藤吉 晴美

九州産業大学人間科学部臨床心理学科

M-CS2-1

トランスジェンダー当事者の精神状態：家族へのカミングアウトとの関連

中塚 幹也

岡山大学大学院保健学研究科/GID（性同一性障害）学会

M-CS2-2

「プライドハウス東京」において、自殺におけるハイリスク層である「LGBTQなどのセクシュアル・マイノリティへの自殺防止対策事業」を実施して見えてきたこと

前田 邦博

特定非営利活動法人グッド・エイジング・エールズ（プライドハウス東京担当）

M-CS2-3

LGBTQ+と抑うつ

梨谷 美帆

NPO法人QWRC/カウンセリング・ラボSORA

M-CS2-4

ゲイ・バイセクシュアル男性のメンタルヘルス

澤田 華世

岐阜大学医学部看護学科

うつ 委員会企画シンポジウム3

[気分障害の治療 ガイドライン検討委員会]

現地

ライブ

日本うつ病学会 当事者のためのガイド、
そして双極性障害及びうつ病ガイドラインの大改定について

2022年7月15日(金) 9:50~11:50

第4会場「3F 302+303」

オーガナイザー

渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室

【趣旨・狙い】

日本うつ病学会は2011年双極性障害診療ガイドラインを、2012年うつ病診療ガイドラインを発表し、双極性障害ではこれまで情報をアップデートし、うつ病では取り扱う章を児童・思春期、睡眠障害、高齢者と増やして来た。さらにはこれまで作業療法士・薬剤師と多職種向けガイドラインなども公開して来た。

今般、日本医療研究開発機構（AMED）の支援を受け、「当事者のためのうつ病治療ガイド」が公開された。さらに双極性障害ガイドラインの大改定（責任者：埼玉医科大学 松尾幸治先生）が進み、本学会で公開予定である。そしてうつ病ガイドライン大改定（責任者：関西医科大学 加藤正樹先生）に向けて、章立ての責任者が決定し、作成が進んでいる。

当日はこうした当学会のガイドラインを巡る試みについて紹介し、当事者の方にもご登壇いただき、ガイドラインへの思いについても語っていただく。

座長

渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室

伊賀 淳一 愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学

- M-CS3-1 **当事者・家族のためのわかりやすいうつ病治療ガイドを作成して**
坪井 貴嗣 杏林大学医学部精神神経科学教室
- M-CS3-2 **うつ病学会 当事者のためのガイド、そして双極性障害及びうつ病ガイドラインの大改定について**
三輪 亜梨紗 地域精神保健福祉機構（COMBHO）
- M-CS3-3 **双極性障害ガイドライン完成までの道のり**
松尾 幸治 埼玉医科大学医学部精神医学
- M-CS3-4 **うつ病ガイドライン 来る大改訂に向けて**
加藤 正樹 関西医科大学医学部精神神経科学講座

うつ 委員会企画シンポジウム4 [ニューロモジュレーション委員会]

現 地

ライブ

うつ病のニューロモジュレーションー研究開発の動向と留意点ー

2022年7月15日(金) 9:50～11:50

第5会場「2F 201+202」

オーガナイザー

岡本 泰昌

広島大学精神神経医科学

昨今、臨床場面では電気けいれん療法（mECT）が難治性うつ病の治療として重要な地位を確立し、反復経頭蓋磁気刺激療法（rTMS）がうつ病に対して保険適用となった。その一方で、保険適用となったrTMSの効果はmECTに比べ劣っており、rTMSの効果を上げるためのさらなる研究推進が求められる。本シンポジウムの前半では、rTMSを、より効果的で、より安全で、手間のかからない治療法の開発の工夫や、そのための情報共有や協力体制の構築に向けて取り組みをご報告頂く。さらに、後半では今年のシンポジウムで取り上げる時間がなかった迷走神経刺激（VNS）の研究開発の動向についてご紹介頂くとともに、これらのニューロモジュレーション法の研究開発を推進し、臨床応用していく際の留意点に関して、神経倫理の立場で論じて頂く。

座 長

住吉 太幹

国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所児童・予防精神医学研究部

和田 健

広島市民病院 精神科

M-CS4-1

rTMSの治療効果の改善を目指した臨床研究開発と研究体制構築

野田 賀大

慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

M-CS4-2

治療抵抗性うつ病へのrTMS治療の臨床効果と電界シミュレーションによる個人差要因の検討

高橋 隼

和歌山県立医科大学医学部神経精神医学教室

M-CS4-3

VNS（迷走神経刺激法）の現状と課題

渡邊 さつき

埼玉医科大学医学部精神医学

M-CS4-4

ニューロモジュレーションの倫理

中澤 栄輔

東京大学大学院医学系研究科医療倫理学分野

うつ学会奨励賞・下田光造賞 受賞講演

現地

ライブ

2022年7月14日(木) 16:20～17:20

第1会場「1F 大ホール」

座長

三村 將

慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

1. 学会奨励賞

医学分野

MP2-6 治療抵抗性抑うつエピソードに対する深部経頭蓋磁気刺激療法の有効性と安全性の検討：偽刺激対照無作為化二重盲検比較試験

演者

松田 勇紀

東京慈恵会医科大学精神医学講座

医療保健分野

MP3-21 難治性うつ状態患者における認知機能とその後の生活の質の改善度との関連

演者

大江 悠樹

杏林大学医学部精神神経科学教室 / 杏林大学医学部付属病院

2. 下田光造賞

KS Excess tau PET ligand retention in elderly patients with major depressive disorder

森口 翔

慶應義塾大学医学部精神神経科

